

教育研究上の目的

通学課程（学部）

学部・学科の人材の養成に関する目的

1. 理工学部	<p>理工学部は、技術立国日本を支え、人類の豊かさに貢献するため、幅広い教養と、理学と工学の知識と技術を基礎とした「科学する心」を持ち、自ら考え行動できる道義心の強い技術者を育成する。</p>
	<p>（１）物理学系 物理学系では、自然界にある法則性を実験や観測により実証し、数学を活用して論理的に理解するという態度を身に付けさせ、物事を探求する力を養う。『「科学する心」を持ち、自ら考え行動できる道義心の強い人材』の理念のもとで、豊かな科学社会を支え、多様化する現代の科学技術に適応できる人材を育成する。</p>
	<p>（２）生命科学・化学系 生命科学・化学系では、生物科学及び分子化学に関する知識や技術を、講義や各分野での実験とプロジェクト活動を通して身に付け、これらの活動により、客観的・論理的に研究を進める多角的な思考力を修得し、ライフサイエンス、ナノサイエンスの分野において活躍する人材を育成する。又、教育界の人材需要を考慮し、現代科学の先端分野の知識を有し、体験教育を実践できる教員養成にも取り組む。</p>
	<p>（３）機械工学系 機械工学系は、機械工学の基礎となる物理学と数学を理解し、設計を行う上で必要な材料力学、熱力学、流体力学、機械力学、航空宇宙分野の基礎知識を修得して、新材料の開発・研究及び新システムによる制御や人工知能に至るまでの最新技術を学び、さらに、関連する分野に興味を持ち、機械・航空宇宙を中心とした産業の持続的発展への探求心・好奇心・責任感・実践力のある人材を育成する。</p>
	<p>（４）電気電子工学系 電気電子工学は、数学、物理学に基づいた基礎技術分野と、日々進化する新技術分野が有機的に結びついて、新たな技術分野へと発展していく特徴を持っている。現在、電気電子工学が適用される技術は、社会インフラ、エネルギー、情報通信をはじめとした、生活のあらゆる局面にて必要不可欠となっている。このような背景のもと、電気電子工学系では学生に基礎技術と関連する周辺技術を修得させ、多様な実業分野で活躍する人材を育成する。</p>
	<p>（５）環境科学系 環境科学系が目指す人材は、生活者として環境に配慮し、職業を通じて環境保全のための社会貢献ができる知識と実行力を持つ技術者である。環境問題は、生産や流通の場において解決や改善を図ることが可能なものが多いが、環境科学系の卒業生が志向するところは、環境問題を</p>

	より総合的にとらえることが要求される職場である。基礎学力の充実を図り、その上で実践的な専門知識と高い技術者倫理を備え、環境問題を解決する強い意思と能力を持った人材を育成する。
2. 人文学部	<p>人文学部は、人間の尊厳に関心を持ち、幅広い教養と人間と社会に対する専門的教養を身に付け、人文科学に基づく専門性と積極的かつ実践的に問題解決に取り組む資質を持って社会に貢献する人を育成する。</p> <p>(1) 国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション学科は、幅広い教養を身に付け、コミュニケーション・言語研究・異文化理解の領域を横断的に学ぶことを通して、豊かな専門的力を有し、他者と積極的に関わりながら、互いに理解・協力して問題解決を図り、ビジネス・教育・国際協力などの分野で社会貢献できる人材を育成する。</p> <p>(2) 人間社会学科 人間社会学科は、幅広い教養及び社会学的な思考と社会調査に関する専門知識を有し、市民生活において主体的に物事に関心を持ち、多様な他者の存在を受け入れながら、論理的かつ複眼的な視点から問題を解明する社会学的視点を身に付け、不断に自分の人生をデザインできる人材を育成する。</p> <p>(3) 日本文化学科 日本文化学科は、幅広い教養を身に付け、日本の伝統文化を深く理解し、それを継承発展させ、伝統的側面と比較文化的側面の両面から、世界の中の日本文化の立場と意味を理解し、その独自性と普遍性を積極的に広く発信でき、自らの考えについての的確な日本語運用能力をもって表現できる人材を育成する。</p> <p>(4) 福祉実践学科 福祉実践学科は、幅広い教養と福祉分野の素養を基礎に専門的力を有し、福祉の視点と技術を活用できる福祉社会人と、ソーシャルワークの専門性を備えた実践力のある福祉職業人を育成する。</p>
3. 経済学部	<p>経済学部は、建学の精神である「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」を実現するため、グローバル社会を視野に入れて、経済の専門知識、問題解決のための教養とコミュニケーション能力を備えた人材を育成する。本学部の目標は、企業活動を通じ社会に貢献できる、地域の活性化・発展に貢献できる、社会生活に関わる現場で活躍できる等、社会の多様なニーズに応えうると共に、それに必要な情熱と人間味を備えている人材を輩出することにある。</p>
4. 情報学部	<p>情報学部は、社会の発展や情報技術の進化に柔軟に対応できる能力と、情報学に関わる基礎知識や専門知識を有し、その基盤分野及び応用利用分野で幅広く活躍し、倫理観をもって社会に貢献できる以下の人材を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計算機/情報システムについての知識を有し、それらを構築・管理・保守する技術・技能を身に付けた人材 2. 統計学・数理科学を中心とした文理を問わない周辺領域についての知識及びそれらを探求する姿勢・態度を有する人材

	<p>3. 各分野に対応可能な実用的プログラミング能力を有し、活用することで課題解決できる人材</p> <p>4. 幅広い教養を身に付け、社会の変化に対応した情報の活用を提案・具現化することができる人材</p>
5. 教育学部	<p>教育学部は、人間に対する深い洞察力と共感的態度を養い、学校教育及び保育・幼児教育についての専門的な知識と技能並びに幅広い教養を身に付けた教員、保育士及び教育・福祉に創造的に関わる人材を育成する。</p>
6. 経営学部	<p>経営学部は、経営の全体像と専門分野で身に付けたスキルを生かし、情報化、国際化、社会発展への貢献など多様化する企業及びその他の組織体の行動様式を広く科学的、実践的に捉え、経営の進路を創造的に切り拓く、豊かな人間性を備えた人材を育成する。同時に高い教養と常識、経営の専門知識と技能を持ち、経営に関する問題の発見とその解決能力を身に付け、広い視野と協調性に富み、企業・その他の組織体並びに社会に貢献できる人材を育成する。</p>
7. デザイン学部	<p>1. デザインの本質の一つである実現可能な「企画」を提案する能力と様々な分野に応用・展開できる能力を身に付けた人材を育成する。</p> <p>2. 培われた説得力のある「表現力」を発揮して、社会に貢献できる基礎能力を身に付けた人材を育成する。</p> <p>3. あらゆる場面で「企画力」と「表現力」を活かし、社会における自分の責任と価値を見いだすことのできる人材を育成する。</p>
8. 心理学部	<p>心理学部では、実践的教養としての心理学に関する専門的知識及び技能をもって社会に貢献できる以下の人材を育成する。</p> <p>1. 人間一般の特性を心理学的に評価・理解する技能・手法を身に付けた人材</p> <p>2. 社会集団の特性を心理学的に評価・理解する技能・手法を身に付けた人材</p> <p>3. 青年期・成人期を対象としたアセスメント及びカウンセリングの理論と技能を身に付けた人材</p> <p>4. 幼児期・児童期を対象としたアセスメント及び臨床的介入の理論と技能を身に付けた人材</p>
9. 建築学部	<p>建築学部建築学科は、幅広い教養と建築学に関する専門知識及び実践的な技術を修得することで、時代や環境の変化に対応した安全、健康かつ快適な建築、住宅及び都市空間を創出・提供し、社会に貢献できる人材を育成する。</p>

通学課程（大学院）

研究科・専攻の人材の養成に関する目的

<p>1. 理工学研究科</p>	<p>理工学研究科は、企業・研究所等において、企画・設計・研究開発等を行うための高度な専門技術と知識をもち、将来に向けた新たな研究テーマの発掘及び設定、並びに研究計画の立案及び実行といった研究のマネジメントができる専門的職業人と研究者を育成する。 本研究科各専攻の人材養成の目的は、以下の通りである。</p>
	<p>（１）物理学専攻 物理学専攻は、物理学の特徴である「原理・原則に立ち返って事象を把握・分析し、合理的に判断できる思考方法」を身につけ、理学と工学の両面から問題を俯瞰し総括できる広い視野と、理論のみならず実験を重視しつつ問題解決策を探り、それを実践する行動力を持った人材を養成する。 ① 博士前期課程 博士前期課程では、一つのテーマを深く研究して自然に対する理解を深めることを通して、自ら専門性を深めていく力、複雑な情報を整理・考察し、人に分かりやすく伝える力を有し、人との相互理解を深め、良い人間関係を築く力があり、学術分野のみならず社会活動においても、リーダーシップを発揮できる実践的な能力を有する専門職業人を養成する。 ② 博士後期課程 博士後期課程では、博士前期課程で身につけた能力に加えて、一段と深い物理学の学識をもって、幅広い領域で自立して研究していける専門家、研究者を養成する。</p>
	<p>（２）化学専攻 化学専攻は、実験研究の各段階（調査、計画、実施、結果の分析及び考察）を信頼性のある手法を用いて進めることのできる人材を育成する。 ① 博士前期課程 博士前期課程では、化学の発展に寄与する研究開発に加わることができる学識と、実践する実験手法の専門性を備えた研究者や専門技術者を育成する。 ② 博士後期課程 博士後期課程では、さらに研鑽を積みより深い学識と計画の立案及び具現化までに至る研究手法を身につけ、自立した研究活動を行うに必要な能力や、高度に専門的な業務をリードする能力を備えた人材を育成する。</p>
	<p>（３）機械工学専攻 機械工学専攻は、機械工学に関する高いレベルの専門知識を有するとともに、先進的な研究を通じて高度の問題解決力及び独創力を身につけた、日本の産業界の競争力強化に寄与できる人材を育成する。 ① 博士前期課程</p>

博士前期課程では、高度な専門知識と問題解決力、独創力とを兼ね備えて、開発、設計及び生産技術分野はもとより、機械製品のリサイクルに至るまで、機械工学の技術者が必要とされる幅広い分野で活躍できる専門的職業人を育成する。

② 博士後期課程

博士後期課程では、独創的で先進的な研究を自立して遂行する能力を身につけ、グローバルに評価される新技術や新製品の研究開発を幅広い分野で主体的に行うことができる専門的職業人及び研究者を育成する。

(4) 電気工学専攻

電気工学専攻は、能動的に専門知識を高めるとともに研究を行う態度を身につけ、国内及びアジア諸国の種々の技術的問題を理解し、その解決に取り組むことができる実行力を持った人を育成する。

① 博士前期課程

博士前期課程は、電気工学分野における、応用力を持った高度専門的職業人を育成する。

② 博士後期課程

博士後期課程は、高度の研究能力を持つ自立した電気技術者を育成する。

(5) 建築・建設工学専攻

建築・建設工学専攻は、高度な専門知識と技術を備え、社会の急激な変化に対応し、社会の新たな発展や技術の開発に貢献できる専門的職業人及び研究者を育成する。

① 博士前期課程

博士前期課程は、建築計画や意匠デザイン分野においては、高度なセンスと知識を持ち、実務に対応できる設計者・プランナー等を育成する。また、構造・材料・設備の分野では、高度な専門知識と技術を持ち、実務に対応できる施工技術者・構造設計者等を育成する。

② 博士後期課程

博士後期課程では、より高度な専門知識及び問題解決能力を持つ技術者・設計者・プランナー・研究者等を育成する。

(6) 環境システム学専攻

環境システム学専攻は、国内及びアジア諸国の環境問題を総合的に理解・分析し、問題解決に取り組む実行力とチームワーク力、技術者としての倫理感を持つ環境技術者及び企業等における研究者を育成する。

① 博士前期課程

博士前期課程は、環境分野における広範で高度な知識を持つとともに、それを問題解決に向けて応用することができ、かつ技術者倫理を有する環境技術者（21世紀の環境プロフェッショナル）を育成する。

② 博士後期課程

博士後期課程は、より高度な研究能力を持ち、プロジェクトチームや組織の中で、リーダーシップを発揮することができる自立した環境技術者及び研究者を育成する。

2. 人文学研究科	<p>人文学研究科は、変動著しい環境下に置かれた「人間」とその人間が作り出す「文化」や「社会」に関する諸問題を、各専攻の専門領域の視点から理論的・実証的に研究し、解明することを目指し、高度な専門性と豊かな人間性を備えた専門職業人として社会に貢献する事のできる人材を育成する。</p> <p>本研究科各専攻の人材養成の目的は、以下の通りである。</p> <p>(1) 社会学専攻</p> <p>社会学専攻は、社会学及び社会福祉学の修得を通して、現代社会とそこで展開される人間生活の状況と課題について科学的に考察する能力を高め、社会的諸課題に対する実証的な調査能力及び柔軟な実践力を有する市民社会の有用な実践者及び自立した研究者を育成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程では、中学・高等学校等の教員や福祉関連施設等の専門的職業人と博士後期課程に進学しうる基礎的な研究能力をもつ人材を育成する。</p> <p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程では、高度な専門知識と研究能力を持ち教育・指導に携わる人材を育成する。</p> <p>(2) 国際コミュニケーション専攻</p> <p>人文学研究科国際コミュニケーション専攻では、多言語・多文化的な状況が加速する現代社会において、実践的な言語運用能力を備え、複眼的な視野で事象を分析して問題解決に取り組める高度な専門性を有する職業人及び研究者を育成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程では、実践的な言語運用能力、社会・文化の多様性の理解及び課題解決能力を身に付け、国際社会で活躍できる高度な専門性を有する職業人及び研究者を育成する。</p> <p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程では、多言語・多文化的な現代社会を複合的・複眼的な視点から研究し、実践的な言語運用能力を用いて国際社会の共通課題をグローバルな視野に立って取り組むことができる自立した研究者、及び指導的な役割を担うことができる高度な専門性を有する職業人を育成する。</p>
3. 情報学研究科	<p>情報学研究科は、情報処理技術を基盤とした、産業界に通用するエンジニアリングを修得し、直面する問題の本質を見抜き、的確な解決策を見出し具体的に実現を図り、新しい時代の技術課題を解決できる能力を有する人材を育成する。</p> <p>① 博士前期課程</p> <p>博士前期課程では、情報学の分野において高度な専門知識を持って社会に貢献できる技術者を育成する。</p> <p>② 博士後期課程</p> <p>博士後期課程では、情報学の分野において高度な研究能力を持って国際社会に貢献できる自立した技術者及び研究者を育成する。</p>

4. 経済学研究科	<p>経済学研究科は、経済現象を論理的に分析する能力を持ち、基礎的な研究や実践的フィールドワークを通じ、経済学の先進的研究を理解した上で、専門知識を社会の中で効果的に応用し、主体的に行動できる自立性を兼ね備えた人材を育成する。また、留学生制度を通じ、外国と日本の双方の経済圏において活躍する国際的経済人を育成する。</p>
5. 教育学研究科	<p>教育学研究科では、従前の人文学研究科教育学専攻の人材養成の目標を踏襲しつつ、「障害児者教育」及び「教科教育学」分野の充実を図り、教育の理論と実践の両面から高度な教育研究を行い、教育の本質課題に真摯に取り組むことのできる知見豊かな教育実践者及び研究者を養成する。また、博士前期課程においては、学生の希望に応じて、幼・小・中・高教諭及び特別支援学校教諭の専修免許状の取得可能な教育課程を編成し、その人材養成も併せて行う。</p> <p>① 博士前期課程 教師・保育士、及び教育・保育に創造的に関わる人を育成する学部教育をベースとし、教育思想、教育課程、教育方法、教育行財政、教育心理、幼児教育、障害児者教育、教科教育学等を多面的に研究し、指導的立場で活躍できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>② 博士後期課程 博士前期課程における研究成果の上に、教育学各領域における高度な研究遂行能力とそれを支える確かな倫理性を身に付け、研究成果を教育諸科学や教育現場に還元し、その時々々の社会的ニーズをも敏感に捉え、更なる学問的発展や新しい教育実践の創造に往還的・発展的に繋ぐことのできる人材を養成することを目的とする。</p>
6. 心理学研究科	<p>心理学研究科心理学専攻は、心理学の研究・実践を通して、知識基盤社会を支える、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者並びに高度な専門的知識・技能を備えた職業人を育成する。</p> <p>① 博士前期課程 博士前期課程では、心理学における研究及び実践を通して、科学的な態度をもって、人間の行動と認識を探究し、現代社会が抱える問題の解決に貢献できる人材を育成する。</p> <p>② 博士後期課程 博士後期課程では、心理学における研究及び実践を通して、新たな社会の創造・発展を牽引していく俯瞰力と独創性を備えた研究者を育成する。</p>

通信課程（学部）

教育学部（通信教育課程）の人材の養成に関する目的

<p>教育学部 教育学科</p>	<p>教育学部は、人間に対する深い洞察力と共感的態度を養い、学校教育及び保育・幼児教育についての専門的な知識と技能並びに幅広い教養を身につけた教員、保育士及び教育・福祉問題に創造的に関わる人を育成する。また、社会全体の教育力を向上させる社会教育の専門家（司書）や生涯学習の場などにおいて幅広く教育的な仕事に関わる人材を育成する。</p>
----------------------	--

通信課程（大学院）

通信制大学院 教育学研究科の人材の養成に関する目的

<p>教育学研究科 教育学専攻</p>	<p>教育学研究科では、既存の人文科学研究科教育学専攻の人材養成の目標を踏襲しつつ、「授業研究」「幼児教育研究」「障害児者教育研究」の各領域の充実を図り、通信の方法により、教育学について高度の学術及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、自己実現を目指し、社会に貢献する人を育成する。また、博士前期課程においては、院生の希望に応じて、幼・小・中及び高教諭の専修免許状の取得可能な教育課程を編成し、その人材養成も併せて行う。</p> <p>①博士前期課程 教育実践者及び研究者として、教育思想・教育史、教育課程、教育方法、教育社会学、教育行財政、教育心理学、生涯学習、幼児教育、障害児者教育及び教科教育学を多面的かつ学際的に研究し、批判的省察をもって実践できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>②博士後期課程 博士前期課程における幅広い研究の成果の上に、さらに教育学の特定の研究領域に特化した研究を行い、それを基礎として専門分野において指導的立場で活躍でき、教育学の発展に貢献できる高度な研究能力を有した人材を養成することを目的とする。</p>
-------------------------	---